

Levels of Violence

p185-1 祭りや同盟 安定した集落間の関係を壊す 通常の状態ではない

近接した集落間の関係 基本的に友好的(敵意も持っている)

相手に関する無関心が無知や疑惑を招く 呪術的攻撃

誰かの死 相手のシャーマンが hekura(悪い)を送り込んだ 襲撃

2 ヤノマミの戦い 急襲

定義:2つの集団間における軍事的接触(致命的な害を加える意をもって)

継続的な争い× これでは理解できない

分裂していった集落間で争う 以下で考察

3 全ての致命的な争いが war となるわけではない

war bellicosity-ferocity-violence

4 war は violence の一形態 chest-pounding war と正反対の争いの一種

決闘にはやる側、やられる側にルールがある 害をおさえるようにルールが働いている

3つの形態 chest-pounding,side-slapping,club-fight

p186-1 chest-pounding 一番無害、異なる集落間のメンバー同士

悪意のある言葉・卑劣さ・食料を盗む・けち

2 duel side-slapping 鉞や斧をしようとまれに訴える

3 ヤノマミは chest-pounding duel を他の方法で抑える(石を隠し持って、相手にぶつける)

しかし、石を使わずに参加者の何人かが血を吐くような力で打撃を加える

4 club-fight は次のレベルの violence 集落間で行う、女性をめぐる争い、食料の盗み

Dikawa と父の争い

Dikawa(20歳)は父の許可なしに父がつるしていたバナナを食べる

父が怒り、棒で Dikawa に殴りかかる。集落全体に争いが広がる。

親族関係が重要な役割を果たす。数が不均衡な場合は親族や友人といった繋がり

Dikawa はバナナは自分が育てるまでは食べてはいけないことを学ぶ

5 club-fight で使用される棒 8~10 フィートが望ましい

柔軟性があり、重たく、結構激しく打てる

形や長さはビリヤードのキューに似ている(長さは2倍ほど)

細い方を握るが、エスカレートすると逆に持って尖った方を矛のように使う

多くの争いは他人の妻との違い引きを目撃したことなどによって2人の男からはじまる

相手から一撃を受けてから相手を打つことができる

血が出ると家の柱を引き抜き、争いに参加してそれぞれの敵味方に分かれる

p187-1 頭頂部の傷に誇りにもっている

ある男は傷をひけらかすため、頭頂部を刈り込み、赤い顔料を頭皮に塗っていた
頭の上から見ると、40歳の男の頭は20以上の傷が何か地図のように見える

p188-1 大きな集落ではそれだけ秘密の情事が起こり得るため、club-fight も多い
定期的に発生する 集落が大きければ大きいほど、よく club-fight も起こる 分裂
観察:女性をめぐる club-fight によって分裂
規模の他にリネージ構造、親族構造も争いに影響を与える

2 調査の最後のヶ月 Patanowa-teri が分裂

ある女性の申し立てによると、夫に虐待を受けた 若い男が連れて行った

集落中の男を巻き込む残忍な club-fight に発展

連れ去った男によって怪我をさせられると、エスカレートして先の尖った方で、差し合い
ヘッドマン(Kaobawa の兄弟(並行行))は争いをやめそうとした

連れ去った男が怪我させられるとヘッドマンが怒り狂って若い男に club を突き刺して殺
してしまった

妻は本来の夫の所へ戻ったが、彼女の耳を切り落とすことによって懲らしめた

p189-1 死んだ男の親族はこれ以上の流血の惨事が起こる前に集落から離れていった

怒った一派は Monou-teri と Bisaasi-teri に参加するように求めた

2つのグループが争う時、血縁関係のある村などは報復のために機会を窺っていた

Monou-teri と Bisaasi-teri は彼らを受け入れた

親族関係にあり、また Patanowa-teri の襲撃を望んでいた

当然、女性を何人か受け渡さなければならなかった

2 槍はヤノマミでは一般的に使われない

しかしながら、稀な形態であるがそれらの武器を使うことがある

前もって打ち合わせのある形式状の争い 参加者は弓矢の使用を控える

このような争いは 2つの集落間で相手を殺すまでは至らないが chest-pounding や
club-fight では治まりがつかない時

The Raid and Nomohori

3 raid は次のレベルの violence

目的 1人それ以上の敵を殺し、見つからずに逃げてくる

1人でも殺されると、何人殺しても成功したとは言えない

Rerebawa の話 以前の raid

相手の村のヘッドマンを殺害、小さな子供を誘拐、助けを求めようと逃げた人々を殺害

2日間相手が追いかける 2日目の晩、寝ている間に襲ってきた

ハンモックで寝ていた1人が殺害される

小競り合いが激化し、襲った側はなんとか2人を殺害

Rerebawa によると、1人が殺されたので良い戦いではなかった。

10歳のヘッドマンの息子は Monou-teri の男に殺された

誘拐された子供は、他の子供からいじめられた

4 女性の獲得を目的とした raid

1967年 ブラジル 極端に女性の少ない村 宣教師らのミッション

来訪者から祈りを行った返礼に、鉈や cooking pot が貰えると流布

跪くいて頭を下げている時に鉈で攻撃し女性を誘拐

p190-1 nomohori・裏切り行為 violence の究極の形態

Kaobawa のグループは 1950 年に大虐殺を受ける 裏切り行為には報復がある

襲った側は女性の誘拐を目的(それ以外の場合は全員殺される)

2 一般的に女性の誘拐は敵対関係になかった集団間の敵意を煽るものではない

新しい war は異なる集団に対して、呪術の攻撃を行う時にはじまる

2つの集落間で raid が発生 発見されずに逃げ、女性の誘拐だけですむ

もし、男とその妻が集落から離れた所で捕まえられ、男を殺し女性を誘拐する

集落の近くの場合は、犠牲者の死体がすぐに発見されるので、女性を誘拐せずに逃げる捕虜が戦いの邪魔をするから

誘拐された女性は、集落で男全員に強姦されたあと、妻として特定の男性に与えられる

3 すべての war は報復という動機に刺激され、敵意の延長でしかない

きっかけ:誰かの病気・死・呪術や殺人女性をめぐる club-fight から始まる

まれに食料の盗みが発展する

Kaobawa グループと Patanowa-teri の間の初めの raid の原因

彼らは女性をめぐる club-fight を一通りやって分裂

お互い新しい菜園を作り、また、定期的に昔の菜園に戻って、雑草取りをして生産を継続

誰かが相手が生産していた peach-palm fruit を盗み、報復のため他の食料を盗み、

club-fight や raid に発展

食糧不足で食料を盗むのではなく、相手に威嚇し、怒らせるために行う

4 ヤノマミ自身は女性をめぐる争いが war へ至る殺人のきっかけとして認識

1967年に遠くの離れた村に行った

ヘッドマンの Sasawa は私のイギリス軍用ナイフを欲しがった

ナイフの起源、歴史、交換した方法を教え、連合軍の戦いについて話した

「誰を攻撃したんだ?」「ドイツ-teri」

「おまえは参加したのか?」「いや、父親が参加した」

「彼は何人ぐらい殺したのか?」「誰も」

「おまえの親族は敵に殺されたのか?」「いや」

「彼は女を盗むために戦いに参加したのか?」「いや」

この回答に困惑しながら「呪術のためなのか?」「いや」

「誰かが食料を盗んだんだ!」

Sasawa は翌年サレジオ会(カトリック系)のミッションで殺害された

その息子は宣教師から手に入れたショットガンで相手の頭をぶち抜いた
適切なヤノマミの戦争を描写するには、1950 年代の Kaobawa のグループから分かれた、
Monou-teri の最近の戦闘行為を振り返るのがよい

A Specific War

- 1 Matowa ヘッドマン 特に攻撃的な人
Rerebawa や Kaobawa によると Matowa は集落で一番荒々しかった
私は 1964 年に確か会っている
 - 2 Matowa はよく他の男の妻に手を出し、集落の中で常に争いをしていた
数多くの club-fight をやっていた
彼の若い兄弟が Shmatari の娘を誘拐し、結婚
Matowa は彼女に手を出し、その結果その兄弟を怒らせた
男は Matowa に対して、兄弟でもあるが、怒りをぶつけることを恐れ、彼女を弓で打った
彼は彼女をただ傷つけるつもりだったが、致命的なところに当たり、死んでしまった
 - 3 Manasinawa(当時 55 歳)妻と娘と一緒に Matowa の集団にいた
彼は自分の敵にあたる集落を襲う集団から逃れるため、集落を離れた
彼は相手の間違っただけに報復を行いたかったためでもある
すでに何人かの妻がいる Matowa は Manasinawa から妻とその家を奪おうと考えていた
Monou-teri から Kaobawa の集団が分裂する club-fight に
Manasinawa の妻と娘は、別の集落へ逃げ去った
彼らの保護者が娘を取り返すことに拒否
Kaobawa は子供や女性を取り戻すため、raid を計画
2 人はこの集団から力づくで取り戻される(死亡者なし)
Manasinawa とその妻、娘は現在 Kaobawa の集団とともにいて、最終的に娘を第 2 の妻
として、Kaobawa に差し出した。Kaobawa は現在も彼女と共にいる
- p192-1 Matowa と Kaobawa の集団はそれぞれ 15 年ほど前に分裂
Patanowa-teri と交戦
Matowa は後に Kaobawa と分裂するが、Patanowa-teri と友好関係を結ぼうとしていた
Matowa の集団は前回の裏切りに対する報復時、援助をした
2 つの Shamatarari の集落と同盟 5 年間、Matowa の集団と Patanowa-teri との間は友好
的であったが Shamatarari との関係が強くなったため、関係は冷えていった
- 2 Patanowa-teri は、オリノコ川流域のいくつかの集落を新たな戦いに巻き込む
Kaobawa の集団に対して、友好的になるため助けを求める
私の調査は Kaobawa の集団と Patanowa-teri との完全な平和を記録した
彼らはともに Bisaasi-teri での饗宴に招待される
Matowa の集団(Monou-teri)は饗宴に参加しなかったが、何人かの男達が、やってくる
彼らは 7 人の Patanowa-teri の女性が集落の外にいるのを見つけて、衝動を抑えきれず

彼女らを誘拐し、Monou-teri に帰る

Patanowa-teriの男達は女性がいなことに気づき、Monou-teriの男達が暴れる女性達を誘拐した痕跡を発見した

次の日の朝、彼らは club を持って Monou-teri へ乗り込む

しかし、女性を取り戻そうとしたが、反撃にあってしまい、5 人を取り戻した。

本来はあと 2 人を取り戻さなければならなかったが、Monou-teri ではどうあっても彼女ら戻さなかったため、結局取り戻しには行かなかった。

3 この事件で重要なことは、Monou-teri のヘッドマンは Patanowa-teri が対応できる以上の敵をすでに持っており、彼らと戦っても危険が少ないということを理解していたということである。つまり、Monou-teri がそれほど激しい戦闘を行わなくても、女性を誘拐する機会を与えられたことになる。

4 Monou-teri のヘッドマンである Matowa は Patanowa-teri が何人かの女性を取り戻したので怒っていた。彼は Bisaasi-teri での饗宴が終わった後、集落に帰る Patanowa-teri を奇襲しようと考えた。Patanowa-teri は饗宴が終わる前に Monou-teri との争いを避けるため先に帰っていった。

p193-1 しかしながら、Matowa は Patanowa-teri を降伏させようとして、満足していなかった。そして、彼らを強襲することを決めた。1966 年 1 月、彼と Monou-teri の男の一行は Patanowa-teri を強襲した。彼らは rasha の木に登っている Bosibreï を捕まえた。Bosibreï は彼らが襲ってきた時木の上において、影がいい目標になった。彼らはヤシの実を捕っているとき、一斉に攻撃し、殺してしまった。皮肉にもこの戦いに参加していた Matowa の兄弟の 1 人は Bosibreï の娘の 1 人と結婚していた。

2 Monou-teri では Patanowa-teri が報復してきたあと、逃げ込むために Mavaca 川を越えた、新しい菜園の準備をしていた。彼らは反撃が始まる前に Mavaca 川が天然の障害になるので、菜園を確保しようとしていた。2 人の急襲者が Matowa の並行小川で兄弟と呼ばれていた。彼らは新しい菜園の付近でミツバチを探しているとき、Matowa を捕まえた。1965 年の 2 月の第 1 週だった。彼は 2 人の妻と 1 人の子供が一緒にいた。彼は一斉に弓矢が打ち込まれたとき、木を探し少なくとも腹に 5 本刺さった。彼は致命的な傷を負ったがどうにか矢を矢筈に掛け、彼らに打ち込んだ。それから急襲者の 1 人の Bishewa が Matowa に矢を打ち込み、耳の下の頸に刺さり、地面に落ちて死んだ。

3 急襲者らは Monou-teri に現場が近く、Mavaca 川を越えて逃げなければならず、女性を誘拐しようとはしなかった。女達は村に走って逃げ帰り、何が起こったのか話した。本来は追いかけるべきであるが、Kaobawa や他の Bisaasi-teri の人によると、Monou-teri は急襲者が戻ってくることを恐れ、ジャングルに暗くなるまで隠れた。彼らの恐ろしいリーダーは死んでしまい彼らは混乱してしまった。

4 Matowa の首に致命的な矢を打ち込んだ男は Monou-teri が殺した男の息子だった。また、Matowa を襲った 2 人は分類すると彼の兄弟(同じリネージ)であり、3 人は義理の兄弟であ

った。もう1人はPatanowa-teriで子供の頃成長し、その後、彼と彼の母は離れたShamatariの村に誘拐された。

5 Monou-teriは翌日、Matowaの死体を埋葬した。彼らはその週に葬式を行い、彼らの同盟者、2つのShamatariの村のメンバーや2つのBisaasi-teriに参加するよう招待した。彼の灰は同盟関係にある村の何人かの特別な男に渡された(その男は灰の飲まず、敵討ちをする義務がある)。それは結束と友好関係を再確認する行為である。Matowaの未亡人は2人の兄弟に与えられた。

6 Kaobawaは分類上Matowaの兄弟にあたり、報復の責任を引き受けた。他のMatowaの兄弟は、この責任を引け受けるには、何をするにしても、リーダーシップが無く失敗した。Orusiwaがこの村の最年長で有能であり、誰かがリーダーシップをとらなければならなかった。彼は義理の兄弟としてMatowaとは関係があり、主導権を握った。Monou-teriの主導権は別のリネージへと移った。

p194-1 KaobawaはMonou-teriが新しい菜園を広げるため4月まで報復を遅らせた。これは雨期の始まりと一致しており、次の乾期まで報復を遅らせることで菜園を拡張する時間を稼いだ。

2 Monou-teriは自分たちの菜園に戻ることを恐れた。なぜなら、木材を切り、それを燃やしており、村から離れていたためである。彼らはバナナを採集するためだけに古い菜園に戻った。Kaobawaの集団は避けられない戦いを予測しながら、新しく大きなShabonoを作った。Monou-teriを訪れたものがその作業を手伝った。

3 一方、Monou-teriやその他の集落から襲われることが分かっているPatanowa-teriも新しい菜園を作り始めた。彼らはかつてKaobawaの集団が放棄した菜園の近くに、まだpeach-palmの木があり、収穫できることを知っていた。Monou-teriとBisaasi-teriが再び彼らに戦いを仕掛けたことを知って、オリノコ川流域のいくつかの集団が再び彼らに襲いかかった。この現象もPatanowa-teriが多くの敵を一度に対応することができないことを知っているからである。弱くなった敵に対して徒党を組んで攻撃するのがヤノマミの特徴である。

4 Patanowa-teriは敵を避けるため移動

唯一の同盟者Ashidowa-teriに避難

敵側に避難場所が伝達

村に一齐攻撃をして8人が殺される(女性・子供を含む)

(女性は普通攻撃対象にならない)

25回攻撃を受け、反撃もした(Hasubowa-teriをオリノコ川向こうに追いやる)

Hasubowa-teriは戦いから撤退

P195-1

Hasubowa-teri撤退後 Patanowa-teriは集中的にMonou-teriと戦う

Monou-teriは元の領域に戻る Patanowa-teriが攻撃

Monou-teri は Kaobawa の集団に雨期になるまで救援を求める

Kaobawa はやや困惑したが了承

Monou-teri は Kaobawa らの食料を遠慮なしに食べるので、不満が溜まり、Bisaasi-teri
へ移動 Momaribowei-teri へ移動 Kaobawa へ戻る

Bisaasi-teri は Monou-teri のもてなしをやめたかったので饗宴を開催

帰るためのお土産を渡されると、立ち去らねばならない(残るのは恥知らず)

2 Monou-teri が同盟連中からのけ者のように扱われているので怒る

襲撃されたときに追撃せず、臆病さを示したことによる

Monou-teri は同盟連中の中ではお荷物だった

3 Kaobawa の急襲は 4 月に実施された

Shamatari の同盟者、Momaribowei-teri や Reyabobowei-teri にも呼びかけた

お互いを信用していないので守りが薄くなって女性が誘拐されることに疑心暗鬼であっ
た(Bisaasi-teri らの男は残り、女性を守ることにした)

4 饗宴の午後 no owa(敵の特定の人物の人形)を設置

戦いに参加する男達が模擬戦

体を黒く塗る・村の周囲をゆっくりと敵の痕跡を探しながらはい回る

一ヶ所の集まり Kaobawa の合図で人形に向かって攻撃

ヤノマミは弓が上手 矢を外さない、人形は針山のような

その後、声をあげ逃げていく真似をして村から出る しばらくしてからハンモックに帰る

p196-1 村は静かになる

1 人の男が突然叫び声を上げ、村の真ん中に進み、肉食動物やスズメバチノスリなどを真
似る 他の男も 1 人ずつ同じことを始める

そこでテープレコーダーを設置し、写真を撮影 危険なこと 男達が列状に並ぶ

2 20 分ほどかかって列状になる、約 50 人参加

ざわめきが無くなり静かになる しゃがんでいてよく分からなかった

Torokiwa が深い低い声で「肉が食いたい、肉が食いたい、腐肉をあさるノスリのように肉
が食いたい」と叫ぶ

列に戻ると全員で歌い始める 金切り声になっていく

3 回目の歌で何人かが「家財道具まで返り血を浴びるだろう」と叫ぶ

列が崩れまとまり、頭の上に武器を掲げる 3 回叫ぶ「ヤーヤーヤー！」

声がジャングルにこだますると、敵がいると認識

こだまを聞くと逆上したように踊りはねうなり声をあげ、Kaobawa がなだめる

2 回以上繰り返す

それぞれの家に帰る、帰ると食べた真似をした腐肉を吐き出す仕草をする

p197-1 夜 彼らは死んだものに対し、泣き暗い歌を歌う

女性が大量のバナナを運び込む (戦いに持っていく携行食品)

- 2 再び体を黒く塗る 何人かは赤いふんどしを娘達に見せつけるために着用
弓矢を整え Kaobawa の合図を待つ
wayu itou が繰り返され、男達が叫びながら歌わずに村の中央で列を作る
前日と同じようにこだまが帰ってくると出発する
- p198-1 母や姉妹らが無事に帰ってくるように叫ぶ
男達は女性らが準備したバナナをもらい受け Patanowa-teri に出発
- 2 Kaobawa は背中の下、腹、尿管が痛く、歩くのも苦痛であった
自分が先導したので、行かなければならなかった
グループの 1 人は 5 時間後に帰ってきた(足が痛くなった)
翌日 2~3 人がマラリアで胃が痛いと言って帰ってきた
彼らは wayu itou に参加し、女性に印象づけたので十分
- 3 急襲者の 1 日目はゆっくりと進む 重い食料を携行している
敵の隣村に入ろうとした(1 時間程度で敵に遭遇できるほどよい距離にある)
最後の夜は暗闇の中で火をつけず待機
何人かは火をつけようと不満を言う(ジャガーに襲わる・霊にやられる)
若い連中は怖がって恐れていた(足や腹が痛いと言ふ 逃げる口実を探す)
- 4 急襲者は敵を攻撃する方法が備わっている
2~3 以上のグループ(4~6 人程度)に分かれて、1 つのグループが逃げるとそれを追いかける敵をもう 1 つのグループが待ち伏せをする 何度か繰り返し敵を倒す
未熟な若い者には年長者が教える (wayu itou は練習にもなる)
若い者は初めに逃げることも許される Matowa の 12 歳になる息子も参加
- p199-1 敵の近くに到着すると水源近くに潜む 水くみに来た人間を襲うため
- 2 敵は戦闘期間中 かなり用心深い 大きな集団で行動する
大きな集団には攻撃は行わない
敵が見えないところから村に向かって矢を一斉に放つこともある
夜、村に侵入し誰かを殺すこともある
何人かはその作戦を支持したが、行わなかった
誰か 1 人を誘拐し殺害して逃げるのが、望ましい急襲と考えられている
- 3 女性らは男達がいけない間 神経質、イライラしている(他の村からの奇襲がないか心配)
- 4 数日後には女性同士でいざこざ
赤ん坊の世話を押しつけられた女性が、母親に向かって薪で側頭部を強打・出血
- 5 Kaobawa と Shararaiwa が 1 週間後よろめきながら村に戻る
Kaobawa は傷が酷く戻ることを決意
脱落后、Shararaiwa はへビにかまれる(歩くことができず、Kaobawa がかついだ)
2 日間かかってオリノコ川に着く 誰かが隠した丸木船を発見
へビにかまれて 3 日後村に戻った

- p200-1 夜 他の急襲者も戻る 歌を歌い Patanowa-teri で1人殺して逃げてきたと説明
Patanowa-teri が追いかけて、作戦通りに待ち伏せをし、1人殺した
しかし、Konoreiwa が負傷した
- 2 翌朝 主力のメンバーが Konoreiwa を担架に乗せて帰ってきた
傷口は血まみれ 彼らは Konoreiwa をハンモックに寝かせ、私に傷の状態を尋ねた
 - 3 彼は1週間ハンモックに横たわって飲み食いが禁止された
ヤノマミでは竹の矢で負傷した場合、水分をとることにたいしタブーがある
私はレモネードを作り、恭しくアスピリンを潰してレモネードに入れ、強い薬であると説明した 大量の水で薄めなければならない
水を持ってくるようにいうと、喜んで持ってきた
そしてスプーンでレモネードを飲ました 結局、Konoreiwa は快復した
 - 4 Patanowa-teri で矢を放ち、敵を殺した2人は Matowa の兄弟
殺人者なので unokaimou という儀式で払い清める
 - 5 彼らには、Kaobawa の shabono でハンモックがあたえられ、隔離される
食べ物を棒を使って食べる この儀式は女の子の初潮の儀式に類似
 - 6 タブーの終了後 ハンモックは村の外の特定の木に持って行く
その後、通常の活動に戻る
 - 7 Kaobawa は義務の達成を果たす しかし、Monou-teri は戦いの継続を主張
Kaobawa の集団で Hontonawa がリーダーとして登場
彼は Monou-teri とともに戦うことを主張し、勢いづく
しかし、続く戦いで Patanowa-teri が菜園に現れず、失敗
Monou-teri は戦いの継続を望んだが、Hontonawa は拒否
- p201-1 Monou-teri と Bisaasi-teri は6回戦うのを確認
Monou-teri は雨期でジャングルが水浸しになっているときのみ、菜園に戻る
- 2 Monou-teri は同盟なしに単独で Patanowa-teri を攻撃
一回は雨期の終わりに行われ、私も村にいた
 - 3 特別な儀式が急襲の前の日に行われる Matowa の灰を瓜に入れ、兄弟の家の前に置く
灰のまわりに人々が集まり、泣き叫ぶ
Matowa の竹製の矢筒が持ち込まれ、壊して矢筒自体は燃やされる
薬を吸い込むための管が用意され灰の中に吹き込む 管を半分に割り、鏝で調節する
10の鏝を急襲者それぞれが持ち、戦いに持っていった
残った灰は丁寧に葉で包まれ、屋根用の材料に置かれる
 - 4 その晩、私は新たな方法でヤノマミに感情的に接近した
ハンモックの中でいつもやるようなテープでの録音や記録写真撮影などをしなかった
ある人が「なんでいつものようにしないんだ？」と尋ね、「心の底から悲しんでいるんだと答えた」

村中の人があることを知ると、子供達を家に帰し、みんなで悲しんだ。

近くにいた人が優しく私をなでた

5 翌日 Patanowa-teri へ出発 私の同行が許される

10 人のグループが構成され、進んでいった

1 人が足が痛いと言ふ、2~3 人はマラリアになったという(私が持って行くはずだった薬を忘れたため、村に帰ると言い始める)

Hukoshikuwa が彼らの臆病さに怒り、黙らせる

川岸で彼らはバナナを下ろし、弓矢の手入れをした

私に暗くなる前に村に戻るように言った カヌーで戻っていった

振り返ると彼らは出発していた

Hukoshikuwa は本当は参加したくなかったが、行く義務があった

行わないと、村中、同盟者からぞんざいな扱いを受ける(娘を差し出せなど)

システムがそうさせており、彼はどう猛さを示さなければならない

p204-1 Hukoshikuwa はこの戦いで敵を見つけることができなかったが 1 週間搜索

雨期は敵を探すのが難しい

2 私が 1 年後もう一度やってくると 規模は小さかったがまだ戦っていた

敵 2 人を殺し、2 人の女性を誘拐した

Bisaasi-teri も 10 年後まで戦っていた ショットガンを手入れし、使用していた

2 人がショットガンで撃ち殺された(内 1 人はヘッドマン Kumaiewa)

3 Patanowa-teri はその後、分裂

Monou-teri は新しい菜園を作り、その後 Bisaasi-teri とくっつく

General Comments on Yamomamo Violence

4 2 章 ヤノマミの violence、warfare、誘拐などの違いについて議論

新しい地域も加わってまだ充分ではない

5 1990 年まで Kaobawa の地域

歴史を遡る上で(violence、warfare、誘拐)重要な要素

6 1988 年 Science の原稿依頼

7 1964 年から 87 年までの 1 人の男について詳しく調べた

死に方、武器の使い方、系図、犠牲者など

p205-1 Matowa のような多くの敵を下ろした卓越した人間はこの分析では外した

2 以下のことを示した

1. 成人男性の 40% 近くが他のヤノマミの殺し合いに参加している

大多数(60%)が殺したのは 1 人のみ、何人かは何回も参加し 16 人殺害した人もいる

2. 成人男性の全ての死亡の内 25% 近くが violence による

3. 40 歳以上の全ての人々の内、2/3 近くが肉親など近親者を violence で失っている

またその多く(57%)が 2 人以上身近な人を亡くしている

復習に駆られるという点を説明できる

3 印象的な問題 軍事的衝突の激しさと多産の相関関係

Unokais(どう猛で人殺し経験のある人) : 多くの妻を持ち、多くの子供を持っている

4 もっともらしい解釈 : 彼は社会的に認められ多くの名声を得ているので、多くの妻を持ち、多くの子供がいる

5 Unokais が多くの子供がいる 多くの人を惑わす

ある人は我々の歴史では一般的と捉える

文化的繁栄が生態学的な繁栄と結びつくなら、平和な世界では多くの人間が僧侶やシャーマンになる

6 人々がある歴史的経緯をもってあらゆる行動を起こしているという点に注目

それぞれの適応戦略がある

一般に我々の世界 行為に見合う地位、富、力を手に入れ、それが社会的に価値があると考えられる

ヤノマミ 政体(立法や行政)が無いので多くの妻や子供を持つ

生態学的な重要な側面では似ているが、我々とは異なる